

人と魚と海のネットワーク  
香川県漁連ホームページ  
<http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/>



**JF**  
JF香川漁連

高松市北浜町8-25  
TEL 087-825-0350  
FAX 087-851-0699

# 謹賀新年

## 香川県漁業協同組合連合会

### 代表理事会長 服部 郁弘

年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜りありがとうございました。

さて、日本経済はデフレ脱却を目指し、景気浮揚政策として打ち出したアベノミクスの効果により円安、株高等が進行し、消費に好転の兆しが多少見えてきました。しかしながら4月からの消費税増税、未だ先が見えないTPP交渉等、先行きの不透明感が拭い去れない感があります。

本県の漁業におきましては、円安による燃油価格の高騰、漁獲量の減少や魚価が低迷し消費が伸びず販売不振、ノリ養殖では栄養塩不足による色落ちや食害の問題等依然として厳しい漁業経営が続いているため、後継者が育たず高齢化が進み組合員の減少に拍車が掛かっています。

このような情勢の下で、昨年5月25日に高松で「燃油高騰対策にかかる香川県漁業者集会」を開催し、また同月29日に東京で全漁連主催による「我が国漁業の存続を求める全国漁業代表者集会」に参加し、燃油価格の高騰による漁業者の窮状を国に対し訴えたところ漁業用燃油緊急特別対策が実現し、さらに補正予算で緊急対策が実施されることになりました。また、9月7日には「瀬戸内海環境保全特別措置法」が制定されて40年になることから「瀬戸内海の再生 豊かで美しい里海をめざして」をテーマに記念式典が高松で行われ、県内外約1,000人の漁業関係者が参加しました。我々漁業者は豊かな海の基で水産物を安定的に国民に供給できることを望んでおります。

今年度も、本会といたしましては漁業を継続していくために、漁船漁業については資源管理型漁業と放流事業を推進し漁獲量の安定を目指すこと

もに、魚類養殖業やノリ養殖業については関係団体と協力しながら生産性の向上と価格の維持に取り組んでまいります。さらに、漁業者が減少する中、漁業基盤の強化を図るため、漁協組織再編や事業再編等を検討し、漁業経済活動の活性化及び持続を図るための方策について検討いたします。また、関係団体、県、系統、業界が一丸となりまして「さぬき海の幸販売促進協議会」の事業を継続実施し、県民に広く浸透してきたオリーブハマチなどのハマチ三兄弟、香川県産ノリ・イリコや讃岐でんぶく、さぬき蛸などの県産水産物の消費拡大を図るため、ブランド化の推進やPR活動を通して、消費の拡大に努めてまいります。

本年も、厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、組合員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



## 香川県かん水養殖漁業協同組合

## 代表理事組合長 嶋野 勝路

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

我が国の経済は円安、株高により景気は回復しつつありますが、地方においては未だアベノミクス効果は現れていません。

顧みますと昨年のかん水養殖業はハマチの種苗不足から、浜値が高騰して供給地との折り合いがつかず、池入れ当初から難航を極め、計画尾数の70%程で漁期を迎え、カンパチ、真鯛については高値ながらも順調に池入れができました。

9月からの出荷当初、カンパチは高値で推移していたものの夏場の高値が災いして消費が減退、販売不振となり、11月には昨年対比の50%程しか売れない状況が続き浜値が下落して、12月20日頃に何とか完売した次第です。

ハマチについては浜値が安定して推移しましたが、放養尾数の減少から年末に県内産ブリが足らなくなる異常事態となり、組合員にとっては何とか再生産に繋がる年となりました。

就中、官民一体となり生産した香川ブランドハマチは県内外からの引き合いも強く、オリーブハマチは25万尾を生産し、年明け早々、完売見込ですが、大消費地におけるおさかな大使キャラバン隊等のPRが功を奏し、供給不足は否めない状況となっております。

本年度もカンパチの種苗不足、ハマチにしても昨年並みの在池量から不安等がありますが、香川県漁連と連携を図りつつ漁家経営の安定に努めて参ります。

魚類養殖は我が国のなくてはならない食料産業であり、唯一、増産可能な漁業であります。国においても積立プラスの更なる拡充、全海水ではジャパンブランドとして刺身グレードでの海外輸出に向け鋭意取り組んでおり、輸出による障壁も改善されつつあります。

厳しい水産業界ではありますが、県水産課並びに香川県漁連と連携を密に図り、役職員一同、心を新たに組合員の負託に応えるべく邁進して参る所存であります。結びに皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げて年頭のご挨拶と致します。

## 香川県海苔養殖研究会

## 会長 西口 正弘

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は2020年東京オリンピック招致に成功し、経済活性化に大きく期待が膨らむ年となりました。また、アベノミクス効果により一部産業では好況を呈していますが、まだまだ、我々一次産業にはその効果は現れているとは言えないのが実情です。

さて、平成26年は消費税が8%に増税され市場の冷え込みも予想されます。その上にTPP等の諸問題についても予断を許さない状況となりました。

そういった中、25年度の海苔養殖も開始されております。例年通り9月下旬より採苗が行われ育苗に移って参りました。当初は極端な低栄養塩レベルで育苗時期も遅れましたが、芽付きの濃淡はあるものの概ね順調に推移しました。

本張りは例年より一週間前後の遅れで張り込みました。製造は11月下旬に極一部であります。初摘採が行われましたが、殆どの地区では12月5日以降になりました。しかし、本張り後、再度栄養塩の低下に伴い色落ち傾向となり最盛期を迎えるにあたり非常に予断を許さない状況となりました。

そのような中での第1回共販は風波の影響もあり生産が落ち込み、約1,200万枚と例年を大きく下回りましたが、今後の豊作と価格の安定に期待したいものです。

本年も学校給食等をはじめとする普及PR活動に力を入れて行く所存であります。イベントも新ノリ祭、品評会等が控えております。こういった事を踏まえながら香川ノリの消費拡大に努めてまいります。

最後になりますが、厳しい状況下ではありますが会員皆様方のご健勝と25年度海苔養殖が良い年であり、来年以降に期待の持てる年となることを祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。



## 香川県無線漁業協同組合

代表理事組合長 服部郁弘

新年、明けましておめでとうございます。

平成26年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご協力とご支援を賜り誠に有難うございます。

近年、情報通信ネットワーク技術の開発が急速に進み、通信機器の進歩も目まぐるしいものがあります。漁業無線機器においてもGPS機能が導入され、文字情報による伝達や、海中転落事故情報を発信する装置などが開発され、安全操業の確保を図るための機器が開発されてきています。そのような情勢のなか総務省は、スプリアス規格の改正に伴う規則の改正により、平成19年11月30日以前に製造された無線設備については平成34年12月1日以降使用できなくなるとしています。漁業操業中の海難事故発生時には緊急の対応が必要とされることから、漁業者の安全が守られる機器が普及されることを望んでおります。

昨年は四国管内で不法に漁業用無線等を開設したとして、電波法違反容疑で四国総合通信局と海上保安部から摘発された多数の事例がありました。当組合といたしましても、適正な無線機器運用のため、引き続き無線講習の案内、情報提供等を行い、コンプライアンス(法令の遵守)の推進を図って行きたいと考えております。

当組合を取り巻く環境は、高齢化等による組合員の減少や、携帯電話の普及に伴う無線利用者の減少が続くなど、非常に厳しい状況下にあります。しかしながら、本県の重要な基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員をはじめ、関係官庁並びに関係団体の皆様におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の操業の安全とますますのご繁栄並びにご健勝を祈念申し上げます。



## 一般社団法人 香川県水産振興協会

会長 服部郁弘

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は、当協会の業務推進、また、漁船海難遺児を励ます第9期募金運動につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。また、既にご案内のとおりではありますが、当協会は公益法人制度改革に伴い、昨年4月1日より一般社団法人として新たに一步を踏み出し、事業計画に沿って各事業を推進しております。

さて、豊かな瀬戸内海において営まれてきた本県水産業ですが、残念ながら漁獲量は近年低迷しております。加えて魚価安・販売不振により漁業経営は非常に厳しい状況が続いております。

当協会としましては、大型種苗放流事業により漁獲量の増大を図り、さらに放流効果を科学的に検証するため、平成24年度から4年間の予定でキジハタの放流技術開発の共同研究に取り組んでおります。放流したキジハタは昨夏から再捕が確認されておりますので、具体的な数値で放流効果を推定できると期待しております。

また、県産水産物の販路拡大及び魚食普及が大きな課題となっております。当協会では、学校給食への食材活用、地産地消・食育の推進に加え、「さぬき海の幸販売促進協議会」に参画することにより、県産水産物のPRに継続して努めておりますので、皆様にもご協力お願い申し上げます。

漁場環境保全対策事業として海浜清掃事業等の支援、また、県漁連、県水産課、ライフガードレディースかがわ及び海上保安部等関係機関と協力し、海難事故を未然に防ぐため、ライフジャケットの着用推進に努めております。しかしながら、昨年は漁船による海難死亡事故が本県海域において、不幸にも2件発生いたしました。海難事故を全て防ぐことは困難ですが、今後も海難事故の未然防止に向け、ライフジャケットの着用推進運動等を積極的に推進していきたいと考えております。

最後に、平成26年が事故無く豊漁となりますよう、また会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 岸 宏

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば、昨年は新政権による経済再生最優先政策により復活に向かって滑りだしたものの、燃油高止まり、魚価安、減少する水産物消費量などの課題への対応が求められることになりました。

私が、昨年6月のJF全漁連会長就任以来、強い思いを持ち申しあげていることは、JFグループが自らが変革を恐れない勇気を持ち、そして本会が浜から信頼される実行力をもつ力強い組織であることが、今こそ求められているということでもあります。日本の浜の将来を考えると、まず、我々が自ら決めた道を毅然として進んでいくことが重要であり、そのうえでそれをさらに進める仕組みづくりをJF全漁連が先頭に立ち全力で作り上げなければなりません。

そうした活動を十全にしていくためには、本会の経営が健全であることが前提であります。本会は、増資や事業の利用拡大などを基本とする7か年に亘る経営再建計画を2012年度より取り組んで参りましたが、御蔭を持ちまして、本年度を以って前倒し達成をできる見通しがたったところであります。ここに改めまして、本会への会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。

JFグループでは昨年12月の漁業代表者緊急要請集会をはじめとした取り組みにより、補正予算による省燃油活動推進事業の他、漁業用燃油緊急対策2事業の措置や農林漁業用A重油の特例措置及び地球温暖化対策税の特例措置の延長など、漁業経営維持の仕組みを作ることができました。しかし一方では、大きく動き始めたTPP協定交渉をはじめとする課題など、依然として我々JFグループの進む道筋は険しく、我が国漁業は生き残りのための大きな分岐点にあることは変わりありません。

このような日本の漁業再興へのかじ取りを誤ることが許されない中、本会では、JFの原点に立ち返り、水産物消費拡大に向けた活動に力を注いでまいりたいと考えております。JFグループ関係者の皆様におかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対しての、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

## 2013「食の大博覧会」開催

香川の食の魅力をもPRする、さぬきうまいもん祭り2013「食の大博覧会」(さぬきうまいもんプロジェクト実行委など主催)が12月13日～15日の3日間、香川県高松市林町のサンメッセ香川で開催、会場は詰めかけた来場者の熱気で包まれました。

「さぬき海の幸販売促進協議会」からは旬のオリーブハマチ、讃岐でんぶく、讃岐ダコを販売。またオリーブハマチ、讃岐ダコは刺身の試食も行いました。



### 長蛇の列が出来たオリーブハマチの試食

オリーブハマチは切身販売開始とともに買い物客が殺到。初日30匹、2日目以降は量を増やして販売し、3日間トータルで210匹分が販売されました。

### 主な行事予定 (1/1～1/31)

- 1月4日(土) 仕事始め
- 5日(日) 中央卸売市場新年初市祈願祭
- 10日(金) 第3回乾のり入札
- 18日(土) 第4回乾のり入札
- 25日(土) 第5回乾のり入札
- 28日(火) 税務説明会